

イギリスによる「インドからの搾取」を

記録した植民地文書の隠蔽工作

(1945-1947年)に関する試論

佐藤尚平 / ナヴニート・プラタープ

日時 2026年3月16日(月) 15時~17時

場所 同志社大学今出川校地 烏丸キャンパスSK203

報告者 佐藤尚平(早稲田大学)

ナヴニート・プラタープ(デリー大学)

司会・コメント 水谷智(同志社大学)

使用言語 主に英語

形式 対面・参加自由



佐藤尚平
Shohei Sato

早稲田大学文学学術院教授。博士(オックスフォード大学)。専門はイギリス帝国史、現代中東史。主な研究業績として *Britain and the Formation of the Gulf States: Embers of Empire* (Manchester University Press, 2016), "Operation Legacy": Britain's Destruction and Concealment of Colonial Records Worldwide, *The Journal of Imperial and Commonwealth History*, vol. 45, no.4 (2017)。



ナヴニート・プラタープ
Navneet Pratap

デリー大学博士課程在籍中。インド政府の大学助成委員会(DGC)シニア・リサーチ・フェロー。「視覚表象と植民地的ナラティブー北インドにおける印刷文化の中の風刺漫画・広告・ポスター(1878-1947)」と題する博士論文を執筆中。

第二次世界大戦の終結直後、イギリスは植民地の独立を見据え、現地で保管されていた機密性の高い文書の破棄を開始した。この隠蔽工作は「オペレーション・レガシー (Operation Legacy)」というコードネームの下で実行され、少なくとも三十七の植民地に及んだと考えられる。本報告では、インドの事例に着目し、イギリスによるインド植民地支配の隠蔽工作をより包括的な規模で検証することを目的としている。

